



外交官。政治家。正岡子規の叔父。伊予松山藩の儒学者で、明教館教授を勤めた大原観山の三男として安政6(1859)年1月22日、松山城下の歩行町(現、松山市)に生まれる。本名は恒忠。旧姓は大原。号の「拓川」は、松山市郊外を流れる「石手川」に由来する。幼くして儒学に親しみ、藩校・明教館に学び、秋山好古と親交をもつ。甥の子規を生涯にわたり支援した。

フランス留学を経て外務省に入り、外務大臣秘書官・ベルギー公使等を歴任後、明治41(1908)年、衆議院議員、のち貴族院議員。明治40(1907)年には、大阪北浜銀行(現、三菱UFJ銀行)頭取や改進黨系の

新聞『大阪新報』の社長もつとめた。

大正11(1922)年、ガンに冒された体ではあったが、要請されて第5代松山市長に就任、城山公園の払い下げを陸軍省から受けて市民に開放する等、リベラルな政策を遂行する一方、北予中学校(現、県立松山北高等学校)の加藤彰廉校長から、松山に高等商業学校(現、松山大学)を設立する提案を受けて友人の新田長次郎に設立資金の支援を依頼した。また、文部省との設置折衝を行う等、学校設立運動の中心的な役割を果たした。

大正12(1923)年3月26日、65歳で死去。勳一等旭日大綬章が贈られた。

略歴

- 安政6(1859)年 大原観山の三男として、松山歩行町に生まれる。
- 明治3(1870)年 松山藩校明教館に入学
- 明治9(1876)年 司法省法学校に入校。原敬、陸羯南が同窓であった。
- 明治12(1879)年 司法省法学校を退学処分となる。
観山の叔父である加藤家の養子となる。
- 明治14(1881)年 中江兆民の仏学塾に学ぶ。
- 明治16(1883)年 旧藩主の息・久松の随員としてフランスに遊学、パリ法科大学などで学ぶ。
- 明治19(1886)年 外務省交際官試補になり、欧州の各国に出張
- 明治25(1892)年 パリ駐在書記官に任ぜられ渡仏、日仏条約改正に奔走
- 明治35(1902)年 特命全権公使としてベルギーに駐在
- 明治39(1906)年 6月、万国赤十字条約改正会議などに全権大使として出席
- 明治40(1907)年 外務大臣・林薫と対立して外務省を退職
大阪新報社に入社
- 明治41(1908)年 5月、郷党の要請で松山市から衆議院議員選挙に立候補して当選
- 大正元(1912)年 衆議院議員を満期退任後、貴族院に勅撰
- 大正7(1918)年 パリ講和会議に西園寺公望大使の随員として出席
- 大正8(1919)年 シベリア派遣臨時大使としてシベリア出兵の処理に当たる。
- 大正11(1922)年 郷党の強い要請で松山市長に就任

大正12(1923)年 3月26日、市長在職時の65歳で病気のため永眠。
墓所は松山市拓川町の相向寺にある。

<関連図書>

- 加藤拓川『拓川集』 拓川会 1930年～1933年
- 愛媛県百科大事典編集委員『愛媛県百科大事典』 愛媛新聞社 1985年
- 愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物編』 愛媛県 1989年
- 島津豊幸『加藤拓川伝』 松山大学 1997年

<関連施設>

- 松山市立子規記念博物館 〒790-0857 愛媛県松山市道後公園1-30
Tel:089-931-5566
- 温山会館 〒790-0826 愛媛県松山市文京町4-2 松山大学内
Tel:089-026-7141

愛媛県生涯学習センター:TEL 089-963-2111(内線212)
掲載情報の無断転載を禁じます。